

「つくる、道がある。つなぐ、世界がある。」 道路建設機械のトップメーカー

酒井重工業株式会社

120万キロを越える我が国の道路網。この建設を支えて来たのが酒井重工業の技術だ。1929（昭和4）年国産初のロードローラを開発。酒井重工業は道路建設機械のパイオニアとして、道路の建設・維持補修事業の高度化に向けて、たゆみない新製品開発と基礎技術研究を続けてきた。

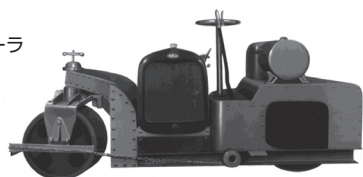
ユーザに信頼のおける製品とサービスを提供すること。道路建設機械のスペシャリストとして常に技術の深耕を図り、道路事業の発展に有益な技術を創造してゆくこと。そして道路建設機械で培った専門技術を周辺分野の事業にも

役立ててゆくことが、当社の存在意義であり、責務であると考えている。

◎ 100年の信頼。それは、あくなき挑戦の証。

創業は1918（大正7）年。酒井金之助が、当時輸入した自動車や機関車の修理を主な業務とする酒井工業所を設立した。9年後には森林鉄道用の機関車、11年後にはロードローラの国産化を開始。メーカーとしての基礎を築き、タイにロードローラを輸出する等順調に業績を拡大した。しかし45年5月の東京大空襲により、芝浦の工場のほとんどを焼失してしまう。その後、2代目酒井智好が事業再建に着手。工場を修復し焼け残った部品を利用して生産再開に漕ぎつけ、49年に株式会社酒井工作所として再スタートを切った。機関車とロードローラを2本柱として事業を再成長させたが、森林鉄道の衰退と道路網の急拡大に伴い、道路建設機械専業へとシフトすることになった。

国産初のロードローラ



SAKAI SW654 振動ローラ



● 社是・理念

良い製品を安く、早く、親切心をもって作り、それをユーザに提供することによって、国土開発という社会事業に貢献する。

和の精神を基本理念とし、労使一体、共に働くことにより、苦楽を分かち合い、物心両面の豊かな生活を確保すると共に、企業を建設機械メーカーとして一流のものに成長させる。

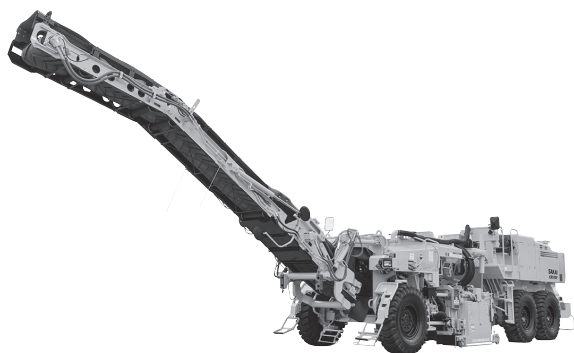


代表取締役社長

酒井 一郎 氏

● 長寿の秘訣

道路建設機械は、建機の合計出荷高の3%に過ぎないニッチ市場。そこに選択と集中を進め、独立系専門メーカーの強みを生かしてグローバル展開してきた。道路という最終構造物を作る性質上、品質や密度、平坦性をはじめとするユーザの要求基準は、一般建機に比べて極めて高く、多品種少量の開発、生産が避けられない特性を含めて、事業を取り巻く環境は厳しい。大手企業による系列化が進む中、そこで確固としてビジネスモデルを確立した同社の優位性が際立つ。

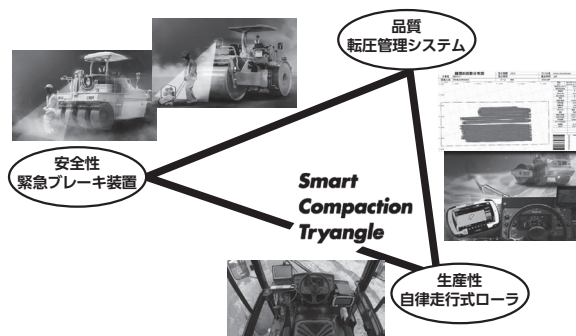


SAKAI ER555F ロードカッター

● 会社概要

創 業 : 1918 (大正 7) 年 5 月
 設 立 : 1949 (昭和 24) 年 5 月
 所 在 地 : 東京都港区芝大門 1-4-8
 事業内容 : 道路建設機械の製造・販売
 資本金 : 31 億 9,100 万円
 売上高 : 連結 247 億円
 社員数 : グループ 628 名 (2019 年 3 月末)

URL : <https://www.sakainet.co.jp/>



※[Smart Compaction Tryangle] は、次世代技術を活用した締固め品質、安全性および生産性の向上へのあくなき挑戦を表した当社の造語です。

次世代技術

以後日本経済の高度成長とともに成長し、ロードローラーでは国内シェア7割、世界100か国以上に輸出する日本を代表する道路建設機械のトップメーカーとなった。

なお、この間、81年に東証1部に上場し、創業50周年を迎えるに当たり67年に商号を酒井重工業株式会社に変更した。

100年にわたる酒井重工業の歩みは、まさに日本の道路建設の歴史そのもの。道路建設という重要な社会インフラ整備を担う酒井重工業は今日に至る日本経済の基盤を支え続けた存在といえるだろう。

今後益々高度化、多様化、そして環境への配慮が必要となる。酒井重工業は、長年の経験から生まれた有形無形のノウハウと新技術への飽くなき挑戦により、時代の要請に応え、世界の国土建設に貢献できる企業を目指している。